

第2章 まちづくりの課題整理

1 まちづくりの視点

2 まちづくりの課題

1 まちづくりの視点

今後のまちづくりの課題を整理するにあたって、本市を取り巻く社会環境の変化と本市の現状を踏まえ、まちづくりの視点を整理します。

視点1 集約型都市構造の構築

本格的な人口減少、少子化及び高齢化社会の到来を踏まえ、持続可能な都市の在り方として、都市規模の縮小化が避けられなくなっています。

本市は、国土軸に接続するJR岐阜羽島駅と岐阜羽島ICのふたつの結節点を有することで、広域圏における拠点性と優位性を保ってきました。

JR岐阜羽島駅周辺については都市拠点の中核として、多様な都市活動機会の集約を図る必要があります。

岐阜羽島IC周辺についても、流通・物流系施設の立地誘導を進めてきましたが、広域圏だけでなく、地域とのつながりのある都市活動機会の誘導を図る必要があります。

また、南北に長い市域において、中央部に市街地がまとまっていますが、北部と南部の市街地外の地域にも集落地が点在・連担しています。生活圏の広域化が進むなかにおいても、地域社会・コミュニティの維持が求められます。

そこで、都市規模に見合った都市機能と居住の集約とともに、広域生活圏における拠点性を確保しながら、羽島市域をひとつの地域生活圏として維持させるため、集約型都市構造の構築を図る必要があります。

視点2 都市活力の再生と創造

近年における本市の人口は、自然動態の減少が年々増加し、転入超過傾向である社会動態を上回る状況が続くなど、人口減少の要因は複合的なものとなっています。さらに、昼夜間人口比率は常に90%を下回っており、一層低下傾向にあります。この傾向は、市内に就業・就学の場が不足していることが原因と考えられます。

実際、工業は、製造品出荷額等の規模がリーマンショック以降回復していません。岐阜羽島IC周辺への産業立地・集積が進んでいるものの、製造業の事業所数並びに従業者数も減少傾向にあります。また、商業についても商店数、従業者数、年間商品販売額ともに伸び悩んでおり、周辺都市と比較しても市外への需要（消費）流出が多くなっています。

都市活力の維持・向上には、何よりも生産的な都市活動機会の創出が重要です。時代の変化や社会の変革による新しい常識の潮流も踏まえた都市活動の集積と、その受け皿となる都市空間の整備を図る必要があります。

視点3 環境との共生

本計画の施行期間においてはSDGsで掲げる開発目標との整合性が求められており、まちづくりの結果として発生する環境負荷については、計画段階からその軽減を図ることが求められます。

自然環境については、自己回復が図られるよう農地を保全し過度な市街化を抑制するとともに、河川や地中に生活排水が流出しないよう下水道等の都市基盤整備に取り組む必要があります。

また、地球温暖化を防止するため、利用しやすい公共交通体系の構築や、渋滞が発生しない道路計画と土地利用計画を進める必要があります。

視点4 大規模災害への対応

本市では、「南海トラフ地震」と「養老－桑名－四日市断層地震」の発生に際し、大きな揺れと、液状化の発生が予想されています。

また、近年は台風等の影響による豪雨被害が全国各地で発生しており、岐阜県内でも甚大な被害に見舞われています。本市では、過去には豪雨に際して内水被害が発生しており、これまで境川や桑原川の河川改修を進めてきました。一方で、木曾川と長良川に挟まれ、市域のほぼ全域で最大5～10mの洪水浸水を想定（想定最大規模）しています。木曾川や長良川の整備計画は長期に及ぶことから、万が一の被害を想定した対策が求められます。

したがって、市民の生命と財産ならびに地域社会を守るため、防災拠点の整備や安全な避難経路の確保、建築物の耐震化促進が求められます。特に水害に対しては、土地の保水・遊水機能の確保や官民一体となった災害対応力の向上など、河川改修だけに頼らないハード・ソフト両面による流域治水に取り組む必要があります。

視点5 都市魅力の向上

本市は、国土軸に接続した立地特性だけでなく、木曾川と長良川に挟まれ自然豊かで使い勝手の良い平坦な土地や、竹鼻地区などに残る歴史・文化、良好な街並みを構成する資源（建造物、樹木等）など、多くの魅力を有しています。

一方で、仕事や学びで市外へ多くの人々が流出し、この地域を元気にする担い手が不足しており、本市が有する資源を生かしているとは言い難い状況にあります。

したがって、本市の魅力の向上と発信に向け、年齢や性別を問わず市民の誰もが地域社会や地域経済の運営に参画し、活躍できる場を創出することが求められます。

視点6 新しい常識・価値と新技術の導入

2019(令和元)年末からはじまったコロナ禍によって、人々の暮らしが大きく変化し、新しい常識に基づいた生活が求められてきました。日常の生活行動や働き方についても、従来に囚われないスタイルに変化する可能性があります。就業や消費等の都市活動について周辺都市への依存度が高い本市においては、変化に対応したまちづくりを推進することで、市内に活力を呼び込む可能性も期待されます。

また、超スマート社会Society5.0への変革が始まっています。人口減少、少子化及び高齢化による活力の低下、環境負荷の軽減といった都市・地域が抱える問題をIoT、ロボット、人工知能、ビッグデータ等の新たな技術の活用によって解決することが期待されています。

2 まちづくりの課題

まちづくりの視点を踏まえ、本市におけるまちづくりの課題を抽出します。

課題1 広域的な位置づけに関する課題

- 国土軸に接続するJR岐阜羽島駅や岐阜羽島ICを有した立地特性を広域圏における拠点性に活かすため、これら広域的な交通結節点機能の更なる強化と、その優位性を活かし、地域に還元するための都市機能集積が必要です。

課題2 人口に関する課題

- 近年、自然動態の減少が続いているだけでなく、社会動態が減少した年もあり、居住環境の充実と計画的な宅地の整備による移住・定住人口の促進が必要です。
- 昼夜間人口比率が低く、昼間時における人口吸引力の強化が必要です。
- 人口の流出超過によって都市活力の低下が懸念されることから、企業誘致をはじめ新たな都市活動機会の創出が必要です。

課題3 産業に関する課題

- 輸入農産物の増加のほか、高齢化や後継者不足による農家数の減少に対し、農地の利用集積を進めるとともに、情報通信技術等を活用したスマート農業を推進するなど、農業の再生が必要です。
- 生産力の強化や雇用の受け皿づくりの観点から、既存産業に拘らず多様な産業集積が必要です。
- 商店数、従業者数、年間商品販売額はいずれも減少傾向にあり、購買流出傾向が強いことから、消費者の定着と吸引力の増強が必要です。
- 商業活動は中心市街地、JR岐阜羽島駅周辺や岐阜羽島IC周辺、幹線道路沿道等に形成された商業地にみられますが、今後も多様な消費ニーズに応えるための商業地の形成が必要です。
- 事業所数、従業者数、製造品出荷額等はいずれも減少傾向にあり、JR岐阜羽島駅や岐阜羽島IC周辺等の拠点を活かした産業集積が必要です。

課題4 土地利用に関する課題

- 市街化区域内に未利用地が多く残っており、土地利用の推進が必要です。
- 土地利用の混在がみられる地域があり、適正な用途地域の配置と工業系土地利用の集約化が必要です。
- 都市基盤整備が進み立地ポテンシャルが高まっているJR岐阜羽島駅周辺や岐阜羽島IC周辺、市街地内の整備済み幹線道路の沿道では、高度利用等土地の有効活用が必要です。
- 農業の衰退による集落地の活力低下が懸念されることから、地域生活圏を維持するための新たな経済的基盤が必要です。
- 大規模災害を想定し、保水・遊水機能の確保に向け、農地等の都市化の抑制が必要です。

課題5 交通体系に関する課題

- 人口減少、少子化及び高齢化が進むなかで市民の生活の足を確保するため、ICTを活用した公共交通の利便性向上が必要です。
- 広域的な都市圏における交通結節点機能を活かすため、周辺都市とネットワークする幹線道路網の早期整備が必要です。
- 北部と南部の市街地外の地域において、地域社会・コミュニティが維持されるよう、中心部（市街地エリア）との連絡機能の強化が必要です。
- 防災機能を考慮した道路の整備が求められており、防災機能を有する道路の計画的な整備が必要です。
- 歩行者・自転車が安全に通行できる道路が求められており、歩道や特殊道路等による歩行者・自転車ネットワークの形成が必要です。
- 生活道路の整備が求められており、住民との協働による生活道路の整備が必要です。

課題6 都市施設に関する課題

- 日常的な公園が不足しており、市民からも求められていることから、都市公園の適正な配置による整備推進が必要です。
- 大規模災害に備えて、防災機能を持つ公園の計画的な整備が必要です。
- 木曾川、長良川などの自然景観や田園風景、竹鼻地区の歴史的な街並み等の良好な景観資源の有効活用が必要です。
- 主要な公共施設等は市街地の中心部に集積していますが、供給処理施設や福祉施設は市街化調整区域にも分布しており、公共公益施設の機能的な配置が必要です。

課題7 市街地整備事業に関する課題

- 市街化区域では、西側の市街地において面的整備が進んでいる一方で、市役所周辺を含む東側の市街地については基盤整備の不足がみられるため、土地区画整理事業や地区計画制度を活用した計画的なまちづくりの推進が必要です。
- 人口減少時代に対応した集約型都市構造の構築に向け、日常生活の利便性向上のための各種都市機能の受け皿整備や、居住誘導に資する開発誘導が必要です。
- 都市の魅力を高め住みよい羽島市を実現するために、市街地開発や都市基盤整備に合せた街並み景観の整備や、歴史・文化資源のまちづくりへの活用など、特色ある市街地整備が必要です。

課題8 協働のまちづくりに関する課題

- まちづくりは行政と市民が一体となることが求められており、協働のまちづくりが可能な仕組みづくりが必要です。